

「人類哲学」を現代につなぐ

第1回 梅原猛フォーラム

独自の『梅原日本学』を築いた梅原猛彦（1925～2019年）を継ぐ。そのための一歩となる『第1回梅原猛彦フォーラム』（梅原記念財団主催、京都新聞共催）が10月4日、京都市左京区の京都大芝園会館稲盛ホールであった。新世代の書生が受け入れられる語りを、若き梅原が初めて大学で教授となった立命館時代の『弟子』が功績を展望した。そして、生誕100年を記念して新設される『梅原猛彦人類哲学賞』の選考委員たちが登壇。梅原さんが晩年期に提唱した『人類哲学』を現代につなぐ意味を語った。

（樺山聡）

新世代の書き手ら、功績展望

主權し、梅原記郎の代表者として、梅原さんの男である都築裕夫、天主教教授の濱一郎が加わった。父は疾風怒濤つむじ風となつてさまざまな領域を吹き荒らへ、砂浜を立てて颯々としたと振舞つ返つた。その後の梅原さんは天地が逆転している。風雲と言はるる風は逆が、お願ひせの人物も言えた。一方で

立命館大の日下部吉信
名誉教授

られた人麻呂の霊が乗り移ったかのように
した。当時一般的だった文獻考証的で実
証的な研究に背を向け、「対象とはならない
潜在する存在からの呼びかけにこそ、梅
原は感心し、奮い立つ」。日下部さんは「梅
原哲学は隠蔽された存在から湧出してくる
否定性のバトス（感情）によって初めて命
を得て、知を開く哲学」と評した。

こう評価した。「二過性のセンチシヨナルな季節風なら財団は設立されなかつた」

構成を執筆に生かしたという。

教の思想」シリーズを繰り返し読み、その

学者でもない私がエッセーとして書く上でも、自分の問題として考える上でも非常に

「歴」に集る「三ノ」論議」に著
く発展や異端ではなかつたが、「回
帰や循環主義」、父の師匠で「ロ
グス」の著者、上得立の筆を借り
は「直論、物事を捉ふる」レマの
な論理だ。この模範は在るさまに
問題を考へるべき重要であり、
財団設立の動機もそこにある」
と題して語つた。
「私と親しい人々」は「横
公教学
と」と題し語つた。
しめめいさん卒業を卒業後、大
手

学者でもない私が「ッセ」として書く上でも、目の問題として考えずとも非常に勉強に役立つ。

立原順の下部三篇教授は、A4判で20に及ぶ文章を配布し、それを読み上げて口頭で講演した。

下部二篇は梅原さんという。立原順大教授時代の最後の教員さんという。梅原さん1907年、学藝館が立大の大蔵職、その後、京都市立南雲の教授と就くまでの間は時代に、ベネッセアとなった福沢諭吉「天楽」を執筆した。

「むぐぐちやめするんや、クサカバ

晩間、「人類哲言」を見てよくなった。

「人類哲言説」を刊行した2年の2005年。京都市内のホテルで催された90歳祝い会で梅原さんは「人類哲言」を任うけるために「200歳まで生きなければならぬ」と語ったらしい。「結構本気なかな」と思いました。

梅原さんは目を「哲學者」と称した。

西洋形而事への葛藤の中心とした哲言と下部二篇がある。2500年前の西洋形而事の構想的動向の正見ない限り、梅原さんという現物の本質は捉えられない。

【盟友】だた京都大学大教授の故上

の歌」を著した古代権力の関係を築く「神代文庫」の流儀（巻八）の「民三部作」は響を呼んだ。文学や歴史、宗教ながら日本文学の深淵を開明する試みは、儒教四書と呼ばれた。1977年に「京都大学総合文化学院」に就任。大杉隆夫に注いだ。『国語・日本文学研究』

センター、初期所長・創設に尽力。西沢所長退任後、長を務め、一九九〇年の春の呼びかけ人になった。西洋の東洋を超えた「人類の未来の超え」を夢想し、序論じて2003年に「人類学研究所」を被禁書。を刊行。199年に93歳で亡くなった。



しんめいPさん

う。太宰で主流となっていた西洋哲学に違和感を覚え、下部を捨てながら始まる思索の軌跡を口下書きはなした。

「浪人時代は『最悪の発情期』だった。くちめめきめめきの演出でほとんど狂わぬようにした。根柢やにじれた主君一族の怨念も流罪に囚えられ、水底に沈めどろどろと申し上けた」

と口下書きに疑問符を示した。 桐原徳一は西洋哲学の二つの系に属する思想家。これを糺錯とするのは代々の主戦性のイデオロギに必要偏見と独断しかない。くち私ひろ子存在の智の糸譜こそ、人類の哲学として観照できれば「正統論」であると申し上けた」

「梅原猛人類哲学賞」選考委員座談会

「人類学とは何物乎」の「人類学」は、梅原猛・西田智之の『人類学』を、梅原猛が委員のうちに訂正した。文化人類学の泰西巨著・立教大の梅原猛が晩年に自身の学を振り返って「全19巻CDを聞いただけに燃れ、一向かへき方向を以て是れかなと存する異端に驚き、あきらめなない」という力強い言葉が添えられた」とした。

たいですけれど

[illegible][illegible]

理科は理

衆行世紀美術館の館長を務めた
長岡市で、宗大司教授は「原草
てくれ活動」を起した」と継承し
た。人類智の才手
なれたら、今やAIに盡せ
られたと語った。

連伍の組み合わせの法則が知れ
ば生物の世界は分るし、つり姿
えられる。」といふ信念がながめい
く。このころから、あきらかに

生物学者の梅原伸一・青山学院大教授は京大出身。学生だった1980年頃に梅原さんの講演を聞いた。

「哲学者が劇場をプロデュースした」と指摘した。梅原さんがそのことにずっと挑戦し

哲学者の醫田清一さんはある逸話を明かした。

「先生はまず東大を批判した。なぜ仙台から東京を飛び越えて京大に行ったかを語り、『東大の和辻哲郎がいかに偉大で、こゝにこそ行くべきだ』と云う。

福岡さんは「世界はスモホやコンピュターから得られるロゴスのなかに生きている」と断言する。それは、まさに「哲学の語りか演じられる」として哲学になりえたと考えることもできる。芸術文化を通して「哲学」を語ってきた。

「そんなの素直にたづに座り、大好きな大相撲のアレヒ中継を見ている視線はテレビに向かいながらも丁寧に助言した。その間、手元では原稿を書いていたという。」「まさに聖徳

福岡さんは梅原さんが脳死臨調の恐れ、平素にも恨みがあつて、怒りで震えながら、だんだんクレイジーな感じになつて、これはすごいなつて思つた」

て自らを「文藝者」としてゐた。

京の元総統は、梅原猛、柳田孝實の選考委員を務める。柳田孝實の山陽第一、総社地球環境研究所所長は「人類学」に於いて世界を変えたい必要を強調した。「『三



「人類哲学」について語る「梅原猛人類哲学賞」の選考委員ら（京都市左京区・京都大芝蘭会館稲盛ホール）

福岡さんは梅原さんが脳死臨調の
て思った」

所長は「人類哲学」によって世界を変えていく必要を強調した。「三葉」といっていい。その姿勢を取り戻さないといけない」

京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co., Ltd.